

キーワード
【自然・環境】
Nature & Environment

われらが宝である自然や 動植物と共生するため

チョウセンアカシジミを知っていますか？
今や絶滅の危機が叫ばれている
貴重なチョウ 田野畑村の宝なのです。



【チョウセンアカシジミ】
日本では岩手、山形、新潟
3県の一部にだけ生息して
いる数少ないチョウ



観察会は、幼虫・成虫など段階に合わせて開催。保護の大切さを訴えています

チョウセンアカシジミは、世界的にも分布が限られている非常に貴重なチョウ。その生息地が日本にもあると分かったのは70年ほど前のこと。それも昭和27年に田野畑村の高校生が採取したチョウが、鑑定により日本産のチョウセンアカシジミと確認されたのがきっかけでした。

田野畑に希少種のチョウが存在していた理由は、食樹であり産卵場所にもなるアノトネリコがあったため。湿地や川べりに自生している以外にも家屋や田畑の生け垣に植えられるなど、非常に身近な存在でした。しかし近年の農地拡張をはじめ河川工事などにより伐採が進んだ結果チョウの数は激減し、絶滅の瀬戸際に。そこで村では昭和48年、他市町村に先駆けて天然記念物に指定。昭和59年頃には村内の有志によって、田野畑村チョウセンアカシジミを守る会が結成されるなど、保護への機運が二気に高まりました。

活動の基本はまずアノトネリコを増やすことでした。村では

守る会を中心に、生息地などを重点地域に決め、関係機関や村内小学校とも協力しながらアノトネリコの植樹を開始。伐採された木から卵を採取して別の場所に移したり、若木も可能な限り移植を行い、卵の違法採取を防ぐための見守りも徹底。また観察会を開いて活動への理解と啓発にも努めました。

現在、田野畑のチョウセンアカシジミは定数を維持しています。環境問題意識の高まりという時代の変化も追い風でしたが、なによりも地域住民の草の根活動が、チョウセンアカシジミという「地域の宝」を守り抜いたといえるでしょう。

「こゝ田野畑には数多くの遺跡をはじめ三閉伊一揆などの歴史神楽などの伝統芸能など、チョウセンアカシジミ同様に守り継いでいけなければならない地域の宝」がたくさんあります。

その素晴らしさを理解し、魅力あふれる地域をつくり出すために、今求められるているのは、住民一人ひとりの「気付き」そして「行動」です。

また、自然環境を守るため、清掃活動や花いっぱい運動などを通じて、自然と調和した美しく潤いある景観形成に努め、日本きれいな村を目指しています。

1 2 公共施設や道路などを彩るための花植え作業に多くの住民が参加して汗を流します
3 資源ゴミの回収も活動を行う団体も増えています

